

多摩美術大学

Adobe® InDesign®

Adobe Photoshop®

Adobe Illustrator®

卒業後の制作現場を見越してInDesignを先行導入



多摩美術大学

- ・多摩美術大学 造形表現学部 デザイン学科
- ・所在地:東京都世田谷区
- ・デザイン学科学生数:466名
- ・カリキュラム概要
- ビジュアルコミュニケーションデザイン分野
- デジタルコミュニケーションデザイン分野
- インダストリアルコミュニケーションデザイン分野
- スペースコミュニケーションデザイン分野

URL: <http://www.tamabi.ac.jp>



左: 宮崎光弘 (みやざきみつひろ) 氏

株式会社アクシス アートディレクター
多摩美術大学造形表現学部 非常勤講師

東京造形大学美術学部卒業。ファッション誌のアートディレクションに携わった後、1986年、株式会社アクシス入社。グラフィックデザインを中心にさまざまなプロジェクトを行う。最近ではペーパーメディアのデザインに加えてマルチメディア関連のデザイン、Webデザインも数多く手掛けている。1999年、モリサワ「人間と文字」CD-ROMで国際マルチメディアグランプリ [F@imp99nl] 金賞、「AMDアワード」ベストビジュアルデザイナー賞を受賞。

右: 菊池美範 (きくちのりのり) 氏

株式会社エイアール 代表取締役
多摩美術大学造形表現学部 非常勤講師

1983年、多摩美術大学デザイン科卒業。広告代理店、デザインプロダクションを経て、1984年独立し、1985年有限会社エイアールを湯浅(菊池)レイ子氏と共同設立。現在はデザイン活動以外に、デザインに関連した教育やコンサルティング、ソフトウェアの開発アドバイス、執筆活動も行う。オンラインマガジン「MacWIRE」(ソフトバンクパブリッシング)にコラム「Outside Macintosh and Design」を定期連載中。

写植機を使った組版の時代から、Macintosh® を使ったDTPが一般的になって10年あまりが経とうとしていますが、Adobe InDesignの登場によってエディトリアルデザインの状況は今まさに変革の時期を迎えようとしています。

そういった時期に多摩美術大学では、造形表現学部デザイン学科で提供されている科目「基礎デザインAll」の前半で、今年からAdobe InDesignを用いた制作が学生に課せられています。

その科目で学生の指導にあたっている宮崎光弘氏と菊池美範氏は、お二方ともアートディレクターとしてデザイン現場で現在活躍中。グラフィックデザインの最先端で華々しい実績をあげつつ、将来のデザイナーを育成する教育現場にも携わっている両氏は、この科目を通じて単なるDTPツールのオペレーションではなく、エディトリアルデザインの本質をつかむ考え方を育てるよう指導されています。

デザイン教育の現場で Adobe InDesignを使うメリット

菊池氏はAdobe InDesignの長所について、デザイン教育を教える観点からこのように語ります。「InDesignはインタフェイスがPhotoshopやIllustratorと共通なので、ページをデザインするとき、学生に拒否反応が起こりづらいんですよ。キー操作などインタフェイスは、初めて実際に学ぶ学生にとっては、大きな問題です。そのツールになじめるかどうか大切なところですから。その点、InDesignは、使い始める際の敷居が低いんです。これまでのDTPツールは、生産性という点では悪くないのですが、インタフェイスの点で他のデザインツールとのコラボレーションがとりづらいんです。逆に、InDesignはページデザインに不可欠なデザインツールと共通のインタフェイスを持つことによって、オペレーションへのとっつきやすさを実現していると感じますね。

また、教える側としても、InDesignはデザインを志している学生に対して、教えやすいツールだと思います。たとえば、今までのツールだと、そのツールを使う前提として印刷の話を知っていろ

てはならなかったのですが、デザインを学ぼうと大学に入ってきた学生にとっては、はじめは印刷の話はなかなかイメージがわきにくいものなのです。InDesignだと、印刷の話より先にデザインの話をしてしまかまわないので、デザイナーを育てたい場面には、最適なツールですね。

現在のDTPツールによってデザインから 失われたものを取り戻す Adobe InDesign

エディトリアルデザインのワークフローにDTPが入って、完全手作業だった頃と比べて、デザインの品質が下がったと言われることがあります。

これは、従来のDTPツールが、写植で実現していた組版のレベルを維持しようとする、当時のハードウェアやソフトウェアの制限によって、かなりの手間がかかってしまっていたことと深い関係があります。

これに対して、菊池氏は、制作現場で感じられるAdobe InDesignのメリットを次のように語ります。「Adobe InDesignでは、デザインとアプリケーションの連携が取りやすく、従来のDTPツールでは実現できなかった概念が、いろいろな場所に戻ってきています。つまり、写植でレイアウト指定を行っていた時代の良い伝統が復活しているというわけですね。」

さらに、今までのDTPツールでは日本語組版の品質に大きな問題があったのですが、両氏ともそこにAdobe InDesignのアドバンテージを指摘します。デザイナーが思い描いている理想のデザインを、DTPツールが細かい指定をする前にどのくらい実現してくれるかについて、「InDesignならばそのままの状態でも85%から90%を実現してくれるという感じですね。もちろん、機能を拡張するプラグインなどを追加したとしたら、それ以上です」と、Adobe InDesignの日本語組版能力について評価しています。





「基礎デザインAII」受講学生作品

PEARMA CULTURE

八田 智美 さん

ビジュアル全体を通して、ページの流れを確認しながらレイアウト作業ができました。

日本生まれの器たち

石川 桂子 さん

Illustrator、Photoshopと操作が同じなので慣れるのが早く扱いやすかったです。

東横線フリーペーパー

宮崎 毅 さん

マージンや段落設定が容易にでき、便利なマスターページはとて良かったです。

レイアウト指定紙をDTPに完全復活させるグリッドシステム

DTPツールを使ったデザインの現場では、レイアウト指定紙の出番は激減しました。しかし、InDesignはレイアウト指定紙をそのまま画面上に表示し、さらにそれをもとにページデザインできるグリッドシステムを導入しています。

これについて、宮崎氏は「レイアウト用紙には、出版社ごとに蓄積していた、段組や文字組みに関するノウハウのエッセンスが詰まっているんです。以前は、いろいろな出版社に出かけていって、レイアウト用紙を盗み見たものです。今でも授業中、学生にその話をするくらい、いまだに強く印象に残っています。それなのにDTPでは利用されることが少なくなってきました。Adobe InDesignで復活しているのは大変うれしいことですね」と語っています。「これがなければ絶対にデザインができないとまでは言いませんが、こういうシステムを使って、ページデザインを行うことができる選択肢が与えられたということは、エディトリアルデザインを行う人にとって素晴らしいことではないでしょうか」とも。



DTPという枠を超え、デザイン制作現場のすみずみに広がっていくAdobe InDesign

Adobe InDesignのこれからについて、両氏はこのように語ります。

「InDesignは、発売されてからそれほど時間が

経っていませんが雑誌、書籍などの制作でもすでに実作業で使われはじめています。毛色の異なるツールの組み合わせで成り立っているエディトリアルデザインの制作現場では、デザインと組版の作業をシームレスに行えるInDesignを使ったワークフローに移行していくことは間違いないと思います。雑誌の制作現場には、DTPをワークフローに組み込んでいないところも少なくありませんが、InDesignが登場したことによって、DTP以前のデザイン手法がDTPに持ち込まれて、制作全体がDTPへと移行していくのも、それほど遠くない将来のことだと思います。

また、教育現場でInDesignを使って得られる効果についても、将来を見据えた視点からInDesignの選択に自信を持っています。「この授業でInDesignを使ってデザインを学んだ学生が卒業する頃には、用いるDTPツールの選択肢の最右翼にInDesignが入っていることは間違いないでしょう。さらに、InDesignを使ったデザイン手法が活かせる分野は、エディトリアルデザインに限りません。そのため、InDesignでデザインを学んだ学生は、エディトリアルデザイン以外の分野、たとえばグラフィックデザインの分野でも活躍できる力をつけることができるのです。」

Adobe InDesignの主な利点

- ・レイアウトグリッドを設定して、オブジェクトを字面に合わせて正確に配置、トリミングさせたり、テキストフレームを正確に配置できる。
- ・フレームグリッドは縦組み、横組みのいずれにも設定でき、レイアウトグリッドと共に使用することにより、テキストの文字数を把握しながら最適な位置に配置できる。
- ・文字組みアキ量設定および禁則処理設定はカスタマイズが可能なので用途に応じた設定が可能。さらに和文・欧文などの様々なフォントを組み合わせると和欧混植のための合成フォントを作成できる。
- ・インタフェイスがIllustratorやPhotoshopと共通なので、なじみやすくスムーズに操作方法を習得できる。

ツールキット ソフトウェア

Adobe InDesign
Adobe Photoshop
Adobe Illustrator

ハードウェア

PowerMacintoshG3 180台